



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

増居翔太君 10

増居翔太君（2-4）は滋賀大会を「苦しい試合も多かったが、ベンチ内だけでなくチームや応援の方を含めて全員で勝ち抜くことができた。打線も守備も強く、実力が発揮できた」と話した。また甲子園を「応援席の真っ赤なアルプスが毎回力になった。緊張もあって思い通りやれていない部分もあったが楽しむことができた」と振り返った。青森山田戦については「9回裏の2アウトまで負ける気がしない試合だった。後半の味方の打線の粘りにチームの強さを感じた。最後まで諦めずにきてよかった。自分が無失点で抑えて流れを持つてこようとしたので、無失点で抑えられてよかった」と微笑んだ。

原功征君 11

「楽な試合はなかったが一人ひとりがやるべきことをで

甲子園で見つかった課題については「一試合を投げ抜く力が足らないと感じた。1年間で投げ抜く体力をつけていきたい」と反省した。甲子園でプレーしたチームについて「どんなピンチでも負けるところが想像できないチームで、ここの一番での集中力がすごいチームだった。打線や守備でもつながりのあるチームだった」と笑顔を見せた。最後に新チームについて「自分は試合に出させてもらったので、この経験を活かして自分がチームを引っ張っていきけるように頑張りたい」と意気込みを見せた。

きた」と滋賀大会を振り返った原功征君（2-8）。甲子園については「初戦は開幕戦ということもあり増居自身も緊張があったと思うが、粘って逆転勝ちができたのがチームの強みだと思う。青森山田戦では甲子園という大舞台の雰囲気にも飲まれてしまったのが今回の反省点だと思う。次は春夏の甲子園で経験したことを活かして、また甲子園に戻って来られたら良いと思う」と話した。青森山田戦に先発投手として出場して「青森山田高校との試合が決まってから準備をしてきた。大舞台で気持ちが高ぶってしまっている青森山田の打線に付け込まれてしまった。今まで先輩に頼りきりだったので、次は同級生や下級生を支えていきたい。また甲子園に戻って来られるよう、今は練習するだけだ」と悔しさを滲ませた。また「青森県大会で勝ち抜いたチームだったので強かった。バッターがとてもうまく、自分のピッチングができていたら抑えられていたが自分の実力を出し切れず負けてしまった。9回裏では5点差だったが絶対勝ててくれると信じて応援していた。2アウトになっても誰一人として諦めていなかった。その

結果、彦根東の意地を見せつけることができた。負けたのは悔しいが最後にチーム一丸となって反撃できたのはうれしかった。チームとしてやりきった攻撃だった。次の秋季大会に向けての課題も見えたので、区切りをつけて新チームの中心選手になれるようにこの負けを活かしていきたい」と青森山田戦の反省を踏まえ新たなステージを見据えた。原君は甲子園で見つかった課題を「大舞台ということもあり変化球の制球がなかなかできなかった。このままでは次に甲子園に行っても同じことを繰り返してしまうかもしれないので、もっと上を見て練習しなければいけないと思う。また練習しなければ甲子園には行けないので、精神面でも大きくレベルアップしていかねければならないと思う」と話した。甲子園でプレーしたチームについて「先輩一人ひとりの能力が高かった。チームが夏の大会に向けて頑張って集大成を迎えるなかで、一つになっていけたと思う」と笑顔を見せた。最後に「とりあえず次は秋の大会に向けて先輩たちを超えるようなチームを作っていきたい」と新チームでの意気込みを話した。